



●学部学生 18,600人 ●大学院生 6,400人 ●教職員 3,480人  
ホームページ <http://www.ncl.ac.uk/>

交流協定締結年月日：2020年6月5日 主管学部：医学部



<https://www.ncl.ac.uk/who-we-are/facilities/>より抜粋



<https://www.ncl.ac.uk/study/campus/#library/>より抜粋

### 国際交流の特色

ニューカッスル大学は、1834年に設立された医学・薬学大学から発展し、現在は総合研究大学として北部イングランドを代表する有名大学となっている。同大学はイギリスの大学でトップ20位にランキングされており、特にイギリス大学ランキング誌The Virgin Alternative Guideにおいては、学生の満足度が非常に高いと評価され、全英トップ10にランクインしている。またその他大学評価機関には「英国で最もフレンドリーな大学」(Friends Reunited Reunion)「英国で最も成功した大学」(The Guardian University Guide)など高い評価を得ている総合研究大学である。医学部のカリキュラムも大変充実しており、1992年から学部学生の派遣を続けているが、医学部学生にも、ますます人気のプログラムになっている。

### 交流実績（令和2年度～令和4年度）

| 年度               | R2 | R3 | R4 |
|------------------|----|----|----|
| 受入・派遣            |    |    |    |
| 学生の受入            | 0  | 0  | 0  |
| 学生の派遣            | 0  | 0  | 3  |
| 研究者・職員の受入        | 0  | 0  | 0  |
| 研究者・職員の派遣        | 0  | 0  | 0  |
| オンライン交流参加者（本学）   | 0  | 0  | 0  |
| オンライン交流参加者（相手機関） | 0  | 0  | 0  |



<https://www.ncl.ac.uk/study/campus/#library/>より抜粋

### 教員からの声

香川大学医学部は毎年、医学実習Ⅱの一環としてニューカッスル・アボン・タイン大学における臨床研修に3~4名の6年生を派遣しています。コーディネーターのMatthias Schmid先生は感染症の専門家であり、現地では通常2週間×3科をローテーションしますが、必ず先生の感染症科を回り、日本では診ることの少ないHIVやTB等の診療を安全に体験することができます。また、丁寧な診察の仕方を教えてくれます。先生はとても温かい人柄で、生徒の自主性を重んじており、積極的にやってみようことを全力で応援してくれます。2023年10月にはSchmid先生から来日いただき、コロナ禍に感染症専門家として一病院から国家レベルまで活躍した貴重な仕事についてご講演いただきました。留学経験者や在校生を集めての先生を囲む会も盛況で、「ニューカッスル大学での出会いと体験は人生の宝物」と留学経験者は口をそろえて話していました。みなさんもぜひ、Schmidファミリーに加わりませんか？

医学部 助教 鈴木裕美

### 学生からの声

2023年4月11日から6週間、イギリスのニューカッスル大学に留学し、The Royal Victoria Infirmary (RVI)で救急医療、感染症科、循環器内科にて臨床実習をそれぞれ2週間ずつ行いました。

学生でありながら、問診、身体診察、手技などの変実的な学びができる環境のもとで、常に目的意識を持ち、能動的に行動しました。失敗してもドクター、看護師、学生からフィードバックを頂き、それを次に繋げるプロセスを繰り返すことで、大きな自信が得られました。

また特に印象に残ったのは、医療従事者が患者さんとの会話に重きを置き、多職種会議(MDT)を何度も行い、患者さんの要望や状況を踏まえた医療を心がけるチーム医療の重要性です。もちろん患者さんの理解や優しさがあったからこそこのような充実した経験ができました。英国で触れたあたたかい医療を胸に、一人でも多くの人の幸せをサポートできるような医師になれるよう努力いたします。

医学科6年 ホセイン ムタサディク